

くらしき まち歩き さと歩き マップ



倉敷市
児島地区
赤崎地区

作成：赤崎地区愛育委員会
協力：赤崎地区社会福祉協議会
発行：倉敷市（平成24年7月改訂）



新庄八幡宮

参道入口に、天保11年(1840)氏子寄進の大鳥居と、嘉永元年(1848)銘の燈籠が一对。さらに進むと、明治36年(1903)野崎武吉郎の寄進の「天壤無窮帝之則」「春秋匪懈降民之哀」の大きいしめ柱。天皇を尊敬し祭りを怠らなければ神が人々に恩恵を与えると述べる。書は巖谷修(号は一六)。隨身門を抜けて石段を上ると拝殿。銅板葺き、檜造り、曲線の見事な唐破風の向拝を持つ。本殿は緑の森を背に姿をみせる。銅板葺きの屋根に千鳥破風を飾る。総樺造り。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神功皇后ほか2柱。新庄八幡宮は、大宝元年(701)宇佐八幡宮より迎えたという。平成に入り、1億7000万円の巨費を投じて大修築を行った。



阿津コース

距離： 3.7 km
所要時間：約 1.0 時間



赤穂の井戸

元禄にお家断絶になった赤穂の浪人が製塩を志して阿津に移住してきた。当時は、井戸を掘っても塩分の多い水しかでなかったが、苦心の末、漸く真水の出る井戸を掘り当てた。以来、水道が通ずるまで地域の貴重な生活の水として利用されてきた。井戸の左奥に地藏堂。なかに錫杖、宝珠を手にした地藏菩薩。台石に享保12年(1727)の造立、16字の地藏を讀める文を刻む。



天祥寺

児島霊場第29番札所。天祥寺は禅宗の臨済宗の寺。白い長い塀に沿って進むと、豪華な山門の前に。そこに嘉永5年(1852)銘の地藏、嘉永2年銘「第二十九番」札所石がある。本堂は本瓦葺きの大きな屋根。平成21年の新築の木の香もゆかしい。本堂の中央祭壇には釈迦如来(本尊)と左右に阿難尊者、伽藍尊者の釈迦三尊をまつ。本堂右脇に大師堂。薬師如来、弘法大師、閻魔大王を安置する。境内に洲脇家(富田屋)墓地があり、地藏堂、また墓碑が整然と並ぶ。なかに遭難の洲脇治兵衛と船子11人の墓碑があり哀れを誘っている。本寺の創建は弘長年間(1261~64)、あるいは天正年間(1573~92)、建立は寛永(1624~44)に富田屋洲脇伝右衛門によると伝えられている。

金比羅宮

額に「金比羅宮」とある鳥居から石段を上る。拝殿の前には燈籠・唐獅子・しめ柱が並ぶ。なかに創立期の寛永(1624~44)に富田屋洲脇伝兵衛の建てた燈目をひく。拝殿は本瓦葺きで大棟、降り棟、隅棟の端と軒の丸瓦「富」の字がはいっている。本殿は銅板葺き。随所に見事な彫刻(鳳凰・獅子・鷹・瑞雲など)を飾る。寛永19年(1642)に富田屋洲脇伝右衛門が讃岐から神を迎えた。

